

2014 年度 職業安定分科会における年度目標の中間評価について（案）

2014 年度の目標として職業安定分科会において設定した年度目標について、当該分科会が実施した中間的な評価の結果は、概ね以下のとおりである。

※ 中間評価は概ね 2014 年 4 月～10 月の数値に基づいて行った。

1. ハローワークにおける職業紹介等

「雇用保険受給者の早期再就職者割合」については 2014 年 10 月時点で、「就職支援プログラム事業の就職率」については 2014 年 9 月時点でそれぞれ 2014 年度の目標の水準を上回っている。

また、「就職支援プログラム事業の開始件数」については、目標達成した前年度の同期の進捗度合いを上回っており、目標の達成に向けて順調に推移している。

加えて、「正社員求人数」、「マザーズハローワーク事業の重点支援対象者数」については、目標達成した前年度同期と同程度の進捗度合いであることから、この水準で推移すれば目標の水準となることが期待できる。

一方、「就職率」については、前年度の同期を上回っているが、年度目標を達成すべき水準を下回って推移しているほか、「求人充足率」については、前年度の同期と比べ新規求人数が増加していることなどを背景に 2014 年度の目標値を下回っていることから、目標達成に向けて、求職者の状況等に応じたきめ細かな就職支援、未充足求人に対するフォローアップなどの更なる徹底に取り組む必要がある。また、「マザーズハローワーク事業の重点支援対象者就職率」については、2014 年度の目標に近い水準で推移しているものの、目標達成のためこれまで以上に積極的かつきめ細かい就職支援に取り組む必要がある。

今後も目標を達成するためにハローワークにおいて、個々の求職者の状況に応じたきめ細かな就職支援を行うとともに、求人充足を図るための積極的・能動的マッチングの推進など求人者サービスの充実に向けた取組を行う必要がある。

「求職者支援制度による職業訓練の就職率」については、2014 年度から雇用保険が適用される就職に見直したところ。2014 年度に開講し、2014 年 7 月末までに修了した訓練コースの修了 3 か月後の実績は、基礎コース、実践コース共に目標値の水準をやや下回っているものの、年度当初に開講した一部コースの値であり、目標達成に向けて就職支援をより一層強化していくことで、目標の水準となることが期待できる。

2. 失業なき労働移動の促進

「労働移動支援助成金（再就職支援奨励金）の対象となった者のうち早期再就職を果たした者の割合」については、2014 年 3 月の拡充により、45 歳以上については従来離職後 5 か月以内に再就職した者だった支給対象を離職後 9 か月以内に再就職した者とする事となり、この期間を経た後に支給申請を行うこととなるため、10 月末現在ではまだ評価を行うことが出来ない。

なお、「日本再興戦略」改訂 2014 においても、「失業なき労働移動の実現」が求められており、引き続き労働移動支援助成金（再就職支援奨励金）の活用促進を図るとともに対象者の早期再就職実現に努める必要がある。

「産業雇用安定センターによる出向・移籍の成立率」については、2014 年 10 月末現在で 2014 年度の目標を上回っており、目標を達成するために、引き続き出向等支援協力員によるきめ細かなアドバイスやカウンセリング等の実施、人材の受け入れ情報の収集等に積極的に取り組む。

なお、「日本再興戦略」改訂 2014 においても、「失業なき労働移動の実現」が求められており、引き続きより一層スムーズな出向・移籍を目指す必要がある。

3. 若者の就労促進

「ハローワークの職業紹介により正規雇用に結びついたフリーター等の数」については、2014 年 9 月末現在、目標を達成した前年度の同期の進捗度合いを上回っており、目標達成に向けて順調に推移している。

「学卒ジョブサポーターによる支援」については、正社員就職者数は、2014 年 10 月末現在、目標を達成した前年度の同期と同程度の進捗度合いであり、目標達成に向け順調に推移している。

「新卒応援ハローワーク」における正社員就職者数は 2014 年 10 月末現在、目標を達成した前年度の同期の進捗度合いを上回っており、目標達成に向けて順調に推移している。

目標を達成するために、引き続きわかものハローワーク等の支援拠点における個別支援の徹底や、関係省庁の連携等による未内定者の就職支援に取り組む必要がある。

4. 高齢者の就労促進

「高年齢者総合相談窓口でのチーム支援による就職率」については、2014 年 10 月末現在で 2014 年度の目標を上回っており、目標達成に向けて順調に推移している。今後も目標を下回る事のないよう、就労支援に積極的に取り組む

む必要がある。

「シルバー人材センターにおける契約受注件数」については、目標を達成した前年同期の進捗度合いを上回っており、例年の年度後半実績の推移も考慮すると、目標達成に向けて順調に推移している。今後も目標を達成するために、シルバー人材センターにおける積極的な就業開拓を推進し、高齢者の就業機会の確保・提供に取り組む必要がある。